

第3回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会 会議録			
日 時	令和4年11月25日(金) 13:30~15:30	場 所	毛呂山町役場201会議室
出席者	委員18名(欠席6名) 傍聴者7名		
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 内野教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 岩田教育総務課管理係長 菅原教育総務課管理係主事		
発言者	内容		
事務局	<p>おまたせをいたしました。6名の委員から欠席のご連絡を事前にいただいています。毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項に基づき、過半数に達していますので会議が成立することを報告いたします。</p> <p>ただいまから、第3回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会を開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。それでは始めに資料の確認をさせていただきます。</p> <p>改めましてこんにちは。着座にて失礼いたします。まず、資料の説明の前に第2回の委員会でお話のありました町ホームページ、こちらのほうの周知の件ですけれど、12月1日発行の12月広報に、その旨QRコードと共に掲載する予定でございます。またこれに関連しまして、ホームページにはこれまでの会議録や資料などいろいろありますので、委員の皆様にも目を通していただけたら幸いと存じますのでよろしく願いいたします。</p> <p>それでは資料の説明のほうをさせていただきます。まず、本日卓上配布した資料からご説明いたします。</p> <p>(~委員提出資料及び送付済資料の確認~)</p> <p>それでは資料の1枚目、本日の会議次第をご覧ください。この次第により会議を進めさせていただきますのでよろしく願いいたします。続いての進行申し訳ありません、着座にて進めさせていただきます。</p>		

<p>教育長</p>	<p>次第の2でございます。挨拶を毛呂山町教育委員会教育長より申し上げます。</p> <p>改めまして委員の皆様こんにちは。本日はご多用の中、第3回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様には日頃より、毛呂山町の小中学校の教育活動をはじめ、幼児教育や生涯学習、スポーツ振興、町の教育の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>すでにもう第1回、第2回の検討委員会が行われましたが、貴重なご意見等ご提示ありがとうございます。この検討委員会の基盤にあるものは、現在毛呂山町で推進しております未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針でございます。学校、家庭、地域が互いに連携して毛呂山の未来を担う子供たちの育成に小中一貫教育の取り組みを通して、現在毛呂山中学校区、川角中学校区で、小中3校で展開されております。小中学校の9ヵ年を連続性のある教育課程で編成し、学習活動や生徒指導、また教育相談等、これらの活動の充実を図りながら小学校から中学校への滑らかな接続、児童生徒1人1人の自己実現ができる1人1人に寄り添った支援に取り組んでおります。現在コロナ禍ということでございますが、コミュニティ・スクールの取り組みとして、中学校区ごとに学校運営協議会を開催し、学校の課題の改善と教育内容の充実には保護者や地域の方に支えていただきながら、地域と共にある学校として両中学校区でそれぞれ創意工夫を活かした特色ある学校づくりの取り組みを、日々展開させていただいております。先日川角小学校に伺いまして、地域の方にご指導いただきながら稲作体験をさせていただきました。5年生が稲刈りの後の脱穀を、足踏み式の脱穀機があるんですけどもそれをお借りして脱穀いたしました。脱穀した粃がですね、まだ稲穂に実がついている、そういう藁を慈しむように1つ1つ取りながら、粃がついたお米なんですけども、一粒一粒ありがたさを感じているようなそんな様子が見受けられました。また例年ですと越生班ということで越生町と共催で音楽祭を行っているんですけども、このような時期ですので、本年度におきましては中学校区ごとに代表のクラスがそれぞれ発表しあうという形で、お互いに鑑賞しあい、そして交流を深めるような行事をさせていただきました。生徒同士、また教職員の交流をはじめ、地域の方々をゲストティーチャーにお迎えした学習も、できるところから計画的に進めさせていただいております。</p> <p>さて第1回、第2回の委員会では先ほども申したとおり、貴重なご意見</p>
------------	---

	<p>ご質問、それに対する資料等大変ありがとうございます。今回も今までの検討内容を踏まえて資料提出させていただきましたが、ぜひご一読いただいて、ご意見等いただければと思います。今回の委員会におきましても現在展開しております小中一貫教育のさらなる推進のために、町の将来を担う児童生徒の望ましい教育環境、学習施設を整備するためのご意見をいただく旨、それぞれのお立場から皆さんのご意見を、望ましい育成に必要な施設の方向性を鑑みたご意見をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。</p> <p>新型コロナウイルスの感染対策も町としては5回目の接種を始めさせていただきました。また小児、それから乳幼児の接種も可能になりました。季節柄インフルエンザ等の対応等、感染拡大防止にぜひ皆様も備えていただいて、また学校のほうにも連絡させていただきましたが、ぜひ日頃の体調管理、感染拡大防止にご協力をいただきたいと思います。</p> <p>活発なご意見等を頂戴しながら進めさせていただくわけですが、今回もぜひその旨よろしく願いいたします。では本日はよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして、委員長ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員長	<p>こんにちは。お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。次回の委員会というのは皆様から今日机の上に置かれました、お寄せいただいたご意見の検討、あるいは確認等に使われるといったことでしたので、実質的に話し合いをするのは今回が最後になると考えます。そこで、事務局から第2回で出た疑問等についてはいろいろ資料を示されましたし、施設一体型の小中学校についての資料も配布されていますので、今回はその中に出ている3つの形、施設一体型、施設分離型、施設隣接型。そして時期。それについて検討したいというふうに考えています。私も委員の1人として、できれば発言をさせていただきたいなと思っております。今回の話し合いが皆様の意見をまとめる参考になりますようにぜひ皆さんご忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第の3、議題に進めさせていただきます。これより次第の3の議題に入ります。議事の進行につきましては、設置要綱第5条第3項により、委員長が議長となっていただきます。なお、以後の事務局の説明に</p>

<p>委員長</p>	<p>つきましては着座にての説明をお許しいただきます。それでは議長、よろしく願いいたします。</p> <p>では、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回の課題で3つの課題が出ていました。1つは毛呂山町と同じような状況のところがあれば参考になるのでその資料をぜひお願いしたいということで出てたわけなんですけども、資料1のほうで見ていただきましたように毛呂山町と同じような状態のは県内にはないというふうな形で示されております。でもその他に全国各地ではいろんなところで大きい学校から小さい学校までいろいろな小中一貫校が作られているということでございます。</p> <p>2つめの施設の説明がないんじゃないかっていう話があったんですけども、資料2の広聴会の中身、そしてメリットデメリットそして資料3、資料4、資料5について読んでいただければ毛呂山町で考えている施設一体型の小中学校がどういうふうになるのかというのが大体わかるかと思われまます。ただ具体的に建物をどうするか中身をどうするっていうことはまだそこまでは検討されていないということでした。もう1つコストの面なんですけれども、一体型でどれくらいお金がかかるかということについてはまだ提示されていませんが、一体型にしても新しい中学校を改修したり、教室が足りない場合には増築をするということでお金がかかる。そして一体型にしないのであっても小学校を改修したり、建て替えをしたりするとお金がかかる。ということでどちらにしてもお金がかかるというようなことを踏まえていただきまして、額の大きさはわからないんですけども、どちらにしてもお金がかかるんだよということを踏まえていただきまして今日の発言をお願いしたいと思います。</p> <p>そして施設一体型を希望される今のままでいいんだよという方については令和8年令和10年ということを再検討ということですので、時期についてやはり少しお考えいただければありがたいと思います。</p> <p>ということですみません、いろいろありますがよろしくお願い致します。ではご意見のほうある方は、すみませんご意見じゃなかった。先にAさんですか、からですね。すみません、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員長ありがとうございました。まずですね、送付した資料の補足説明からさせていただきますと思います。</p> <p>(～送付資料について補足説明～)</p>

	<p>続きまして、A 委員さんから提出されました資料のほうに移らせていただきます。毛呂中から目白台までの図が1 ページ目に描いてあります。1 ページめくっていただいて A 委員さん、委員長とですね10月24日 月曜日、実際に歩いていただきました。気温16度、上着が必要だと感じられる日ですね。実際に目白台2丁目の奥の住宅まで歩いていただきました。小雨、気温が低かったため疲労感は特に感じたりすることはなく歩けました。水分補給、休憩することなくノンストップで。実際に歩いた道のりは遠いと感じていらっしゃいます。</p> <p>A 委員さんは過去に令和4年5月この時も歩いています。気温25度、湿気を感じない良い天気。また8月の夏休みこれは晴れて湿度と暑さを感じる日です。ご家族と歩きました。やはり夏場のほうが非常に厳しい。水分補給が必要で休みたくなる、きついと感じる。</p> <p>なお A 委員さんですけど未就学児保護者から、頭ごなしに反対ではないけれど、年々暑くなっていく夏場の季節や日々の通学にかかる時間や体力面が心配。また保護者の方から毛呂中まで歩くのは大変だと思う、無理だと思う。地域の方々も通学面に心配されていますと。</p> <p>3 ページ目はその距離ですとか、いろいろ設置してあるものですけど。まず子どもをまもる家の看板ですけど、途中は商工会、ブックランドエル、公民館、ときわぎ子ども園、箕和田ローソンになります。毛呂中裏門から目白台まで歩いた場合およそ55分、3.5キロ。右側ですけど泉野小から1年生のみで歩いた場合。これ時速4キロ程度というお話ですけど、泉野小から箕和田のローソンまで20分～25分ぐらい。トイレを借りることもある、夏場は2回信号待ちをすることもある。かるがも公園、これ目白台の下ですけどそこまで8分～10分ぐらい。夏場は休憩長め、座り込んでる児童もいる。少なくとも2～3分休んでから出発。低学年の帰宅時間が一番暑い、35度～38度。代謝が良いため額から流れる汗がすごい。ここからかわせみ公園まで10分～15分。目白台2丁目さらに奥の住宅までそこから3分～5分ぐらい。泉野小からすると約40分～45分程度。というようなことでこちらの資料のほうを提出いただきました。委員長さん何か補足ありますか。</p>
委員長	<p>すみません、ちょっとよろしいですか。すみません、A さんから先ほど電話をいただきまして。私が箕和田に住んでいなければきっとこのような通学距離について心配することはないと思いますけれど、箕和田に住んでいるので、やはり大変な地域のことと考えていただけたらと思ひまして資</p>

	<p>料を出させていただきましたということです。で、高学年になるとさっささっさ歩いてそれほど通学についての心配はないのですが、特に1年生の最初の頃については急に飛び出したり走り出したりする子もいるし、5月6月ごろまでは先生も送ってくるんですけども、先生もクラス2方面あるので2つの方向に分かれて送ってくるので毎日ではないし。いつまでそれが続いていくのか、あるいは毛呂小ぐらい遠くなってしまった時、先生はきっと目白台の上のほうまで送ってくるのは大変だと思うので、それもできないのではないかというふうな話もされてました。とにかくAさんがそれを言ったのは地域の方がとても心配されていることで、どうしても言うておかなければいけないということで言わせていただきましたというふうなお言葉でした。すみません。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 では資料説明ということで、B委員さんよろしいですか。</p>
B委員	<p>はい。こんにちは、委員のBです。私も何か委員として協力できることはないかと思って資料をこさえてみようと思って作りました。これは何を言いたいかという、前回他の委員の方から毛呂山町の教育の現状とかを示す資料はないのかというお話をいただいて、それで私がウェブを見れば資料がありますよというお話をしたんですけども。具体的な資料、これがそれこそグーグルで毛呂山町、埼玉県、小中学校、学習状況とかって入れて出すとですね、もう一番トップにPDFとして出てきます。これ資料の、私が改ざんしていないよというのを含めて、右上にQRコードを付けてあります。これスマホで読み取っていただければ同じPDFが出てきますのでこれを読んでいただければウェブでも見られます。</p> <p>私これ言いたいのはですね、いま先生方、校長先生方を前にして毛呂山町がだめですという話をしたいわけではないんですよ。ただ実際に全国学力・学習状況調査で毛呂山町の子たちが全国平均や埼玉県平均よりも低いという状況が起きているということをもと認識して、私は親としてその状況でこの数値を見てなるほどと、頑張らないとなと私も親として思うところがあるかというところがまず1ページ目ですね。</p> <p>2ページ目3ページ目が同じPDFに繋がっている資料なんですけど、めくったところの左側が小学生、児童質問紙調査。右側が中学生となっているんですけど、同じ令和3年度のところで例えば2番、自分にはよいところがあるかどうかというのを聞いた時に、全国平均や埼玉県平均より</p>

も毛呂山町は低い。それから将来の夢や目標をもっているというのも低い。家で自分で計画を立てて勉強しているというのも低いと。このへんが自己肯定感とか自己有用感、自分ならできるとかですね、自分は生きている意味があるというふうに考える子供がどうしても低くなってしまっていると。で、中学生になると逆にさっきの3番や5番というのは改善が見られるんですけども、これはなんか部活をやったりすることで、もしかすると高学年以上になってきますので中学生になるとこのあたりは夢や目標が見えてくるのかなと。ただ、自分にはよいところがあるというところが上がりきらない。むしろ小学校の数字より下がって出ているのがあるんですね。

なんか私逆にこの資料で朝食を毎日食べているっていうのが全国、小学校だとほぼ全国平均だし中学校だと全国より高くて。毛呂山町って私5年くらい前に移り住んだんですけど、朝食運動みたいのがいつも学校にいくとのぼりで見えて、私が朝食必ず取る派なんですけど、なかなかいい町だなといつも思っていたんですね。それがこういう資料に現れているっていうのはやっぱりその学校の姿勢とか町の姿勢が、親御さんと子供たちにも伝わるとこういうふうに数値で現れるんだなというのもちょっと思っていたところではあるので。なんかやっぱりこのへんの1番は毛呂山町は出来てきているわけですので、2番3番5番の数値を小学校でどう上げていくかっていうのは考えたほうがいいかなと。

で、ここからですね私前回にもちょっとお話したんですけど、要するに非常にこう外側のお話が多いなと思ったんですね、この会議が。要するに外から見て小中学校一緒にするかしらないかみたいなお話ばかりで、その学校内部とか生徒さんの気持ちとかそういうところじゃなくて外の話がすごく多いなと。で、さらに言うところ今いる大人たちって小学校と中学校が分離した状態の教育しか受けてないと思うんですよね、完璧に。だから自分の自己体験として小中が分かれているってことしか知らないわけですよ。でこの成功体験を基に議論をしてしまうと多分おかしいとかありえないっていう話になりがちだと思うんですよね。で、ちょっと話が飛躍するんですけど、いまワールドカップやってるじゃないですか。オフサイドすらビデオアシスタントレフェリーって言ってコンピューターで解析するんですよね。すごい時代が変わったなと思ったんですよ私は。その要するに昔からしたらオフサイドって走ってる審判が旗を上げてっていうのが当たり前だったのに、いまはその旗を上げる人もいるけどもコンピューターに判断させようと。テニスでさえラインをコンピューターで見えますよね。それぐらい時代が進んできていると。さらに言うところ皆さん驚かれるか

もしれないんですけど、私東京の会社に勤めているんですが、コロナというのあって週1回しか会社に行かないんですね。週4日会社に行かないで在宅勤務をしても仕事ができているんですよ。やっぱり時代ってすごく変化してて、しかもものすごいスピードでテクノロジーとともに進化してると。で小学校も多分アイパッド、アイパッドじゃないか。アンドロイドの多分タブレットとかを、グーグルタブレットですか、そういうのを使って授業をしてたり、コロナが酷くなった時にはリモートっていうのを家でもやってたりしました。すごく進んできて、その何かこう新しいテクノロジーとか新しいもの、前回も他の委員の方からも出ましたけど、新しいテクノロジーを交えていくと。先ほどのあの距離が遠いっていう、夏場大変、確かに大変だと思うんですけど、スクールバスっていう話だけじゃなくて、例えば暑いと予測される日はリモートも選択できるというふうになるとか。テクノロジーとかいま使えるものを使って、新しい段階。我々は何度も言いますが小中学校しか体験していないので、週5日全部小学校に行くべき中学校に行くべきと思ってますが、そうじゃないテクノロジーも出てきてるっていうのも踏まえて議論する必要がある。我々はもう小中学校に行かないわけですから、ここから子供たちがどう育っていくかというところにしっかりと着眼点をもって、自分の自己体験ではなくて新しいこと、いろんなことを取り入れながらできるんじゃないかという考えのほうがいいかなと思っています。

で、それを踏まえてめくっていただくと小中一貫というのでまたグーグルで検索するとですね、たくさん事例が出てくるんですよ。そのうちのいくつかを抜粋しました。これ兵庫県の教育委員会がものすごく長い、このQRコード読んでもらえれば見れますけどPDFの冊子をアップしています。でその中に、兵庫県全体で義務教育のところ、ちょっと古いんですけど、古いっていうか、この頃からもう小中一貫をやっているというのがあって。で、その報告書をいろいろ読んでいくと、やはり先ほど毛呂山町で低かった自己肯定感とか自己有用性みたいなものって他の地域でも非常に課題になっていたところで。そこでこの小中一貫をやった時にこれ平成25年から白鷺小学校中学校というのは小中一貫、これは施設一体型ではないようです。小中の交流を踏まえた一貫教育というところを読んでますが、そこでも小中一貫をやったところで家で自分で計画を立てて勉強していますかという回答が中3で高まったと、全国よりも高まったと。その隣のページにいただいて自分にはよいところがあると思いますかというところで当てはまるという回答が、小中一貫教育をやった後に全国平均よりも高まったというような数字が出ているんですね。これで先ほど

のまさに毛呂山町が低かったというのが、小中一貫教育によって補われたような数値として見られるかなというふうに思っています。さらに同じ兵庫県で小野市立河合中学校区というところで、これも小中一貫の教育をやっています。これはもう義務教育学校というような名前になって、あ、それはその次か。ここは小中一貫教育ですね。小中一貫教育で、でも中学生を7年生8年生9年生というような位置付けでやっているの、5年生のところから児童会の活動が始まったり、6年生で完全教科担任制での授業を取り入れたと。そしたら右のページ見ていただくと、6年生の教科担任制が始まったところで学力の向上が見られた。下のグラフを見ていただくと自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が8年間で非常に上がっているという話。家で学校の授業を予習をしているというのも上がったと。教科担任制度になったところで専門的な勉強をしたからか、この一番下ですね、数学・理科甲子園ジュニア2017で本校生徒が優勝というようなことも出てきていると。やっぱりその教育の質が高まっているっていうのも小中一貫で見られているというレポートが出ているわけですね。さらにめくっていただくとこの同じ中学校ですけど、小中合同の行事が行われたりすることで児童の変容なんていうグラフもありますが、中学生になるにあたっての戸惑いは解消したみたいなお話とか。やっぱり小学生と中学生の切り替わりとかですね、さっき中学校になったら自己肯定感、自己有用感が高まったようだというのは数値的に見えたんですけど、それが小学校の5年生6年生の子たちにも有用なのではないかというところですね。これ学力向上、自尊感情向上を狙えるというところは私が書いたんですけど、学校行事を小中学生と一緒に進めることで戸惑いや不安の解消につながる可能性がある。

さらにこれ横浜市なんです、横浜市ではこれ義務教育学校として1年生から9年生までやっていると。これはやっぱり本当にみなさん他の地域は早い段階で平成28年とかに行われているんですけど、このあたり本当グラフ見たとおり学校に来るのが楽しいとか、みんなで何かをするのは楽しいとか。で、図5のですね他の学年の人の役に立っているというのが下がる、9年生の7月から1月に下がるのもこれ説明があつて。これ中3なわけですね9年生です。この中3の受験期、高校入試があるのでその受験期でどうしても他の学年と携われなかったというので、逆に如実に数字が下がっていると。それぐらい真剣に多分9年生が答えてくれているという結果だろうということ。で、いじめの発生件数これまたこのQRコード読んでいただければPDFが挙がってるんですが、いじめの件数が発生しにくい学校になっている可能性がある。断定はこの方もしてらっしゃ

	<p>らないんですけど、不登校の出現率も全国を下回ることができたというようなレポートも挙がっています。</p> <p>最後、私が一応まとめとして自己肯定感や自己有用感が低い、親としても子を通わせたいと思う小学校中学校なのかなと。別に私が今思っているわけではないんですけど、通わせたい小中学校にしてほしいなというふうには思ってますし。これだけ小中一貫のレポートが挙がっているっていうことは各自治体もその少子化の問題とか自分の町、地域の魅力というのを発信していかないといけないという中で、その小中一貫校や小中一貫教育をやっていることっていうのは多分自治体の宣伝にもなっていると思うんですよね。私はやっぱり毛呂山町として先ほども未来を造る人づくりとかですね、自己実現の支援というようなことをおっしゃいましたけど、毛呂山町としてそういうやっぱり姿勢というか、教育に対して我々はその次世代じゃないですけど次のステップに、今までどおりの小中学校をキープするのではなくて、その姿勢を外にも見せていくっていうのが大事なんじゃないかなと思いますし、それこそが親も安心する、子供も安心することにつながるかなと。魅力的な学校ってなんだろうって考えると先生や上級生の目が行き届いてしっかりと学習したり、人間関係や社会性が構築できる環境が整っているかどうか。今は整ってないとは言ってません。ただ単学級がさっきね、今後増えてしまうとか先生が減ってしまう可能性があるというところからすると、やっぱりそこはたくさんの上級生とか、たくさんのお大人の方の目が行き届くということを狙う意味でも、この魅力的な学校にしていくということを観点として考える必要があるんじゃないかなと。この5、6年での教科担任制導入など中学校の授業の仕組みを取り入れてみてはとか、授業理解度の高い学校で一番最初のページの学習に対しても点数が上がっていくんじゃないかなと。私としては自己肯定感、自己有用感の高い生徒を育てる毛呂山町の小中一貫校があるといいんじゃないかなという結論を述べた資料になっていますので。みなさんもしあれでしたらじっくり、後でQRコード読み込んで読んでいただくのがいいかなと思います。すみません長くなりまして、以上です。</p> <p>委員長 ありがとうございます。では議題に入っていきたいと思います。今までの事務局の説明について何か質問等ありましたらお願いいたします。</p> <p> (委員挙手)</p> <p> はい、どうぞ。</p>
--	---

C 委員	すみません、委員の C です。資料 4 番なんですけど、4 番と 5 番かな。クラス数の予想と教室のところなんですけども、これ基本的に使用可能な教室よりも必要数が多い場合には増築が必要という考えでよろしいですか、間違いないですか。
事務局	はい。
C 委員	小学校の場合の川角光山が単学級が両方発生してくる時に、仮にここ 2 つが一緒になった時にそういうパターンでも校舎の増築は必要になるんですかね。ちょっと小学校の資料がなかったので、小中一緒になる時の話だけだと思うんですけど。
事務局	そうですね、年度のほうで例として挙げてるのが川小と光山ですと令和 10 年度 13 年度 21 年度。この 3 年度だけをちょっとピックアップしたものですから、令和 18 年度に川小と光山が両方単学級になるといった数字、ちょっとこれ計算してみないと今すぐお答えできないので申し訳ございません。
C 委員	了解です。基本的にすべて単学級になってしまえばお互いが 1 クラスで一緒になるからキャパは大丈夫なのかなというイメージをしていたんですけど、そういうイメージでいいのかなと。
事務局	そうですね。ただ単学級といっても例えばそうですね、人数が 35 人なのかそれとも例えば 15 人なのか。それによって 2 つを足したとしても 15 と 15 足しても 30 でするのでそれだと単学級のままでですね。
C 委員	増えない可能性がある。
事務局	も、あります。
C 委員	ありがとうございました。
委員長	他にありましたらお願いします。 (委員挙手) はい、D さんどうぞ。

D 委員	<p>D と申します。くだらない質問で申し訳ないかもしれないんですけど、私あの小田谷の地区のほうに住んでるので。目白台のですね、10年ぶりくらいに会社辞めたものでちょっと行ってみたんですよ。そしたらものすごく大きくなってますね。これはもう全然一緒じゃなかったんですよ。確かに今の A さんの地図を見ますとですね、確かに泉野小から毛呂小毛呂中は遠いんでしょうけど、また川角もね結構遠いですね、川角中学校もやっぱり目白台。こういうのもし1、2年生がどうこうって言うんだったらこうなんか簡易的な分校みたいなのが昔あったと思うんですけど、そういうものっていうのはやっぱり予算とかそういうものでなかなかできないんでしょうか。それとも今全国的にこんなのは作らないんでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。分校的なものというようなご質問になりますと学区編成の関係になるのかなと理解します。今こういろいろなシミュレーションを考えている中で学区編成のほうはお示しはしておりません。</p>
委員長	<p>よろしいですか。はい、他にありましたらお願いします。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はい。どうぞ、E さん。</p>
E 委員	<p>E でございます。お送りいただきました資料拝見いたしました。いくつかお尋ねしたいことと確認がございますのでお尋ねいたします。まずですねメリットデメリットがあるというこの資料の中で、学内環境に関する記述っていうのが非常に少ないなと私は感じております。で、この小中一貫にもっていくということであれば教員の加配はどうするのか、校内体制についてどうするのかっていうのは非常に大きな問題になると思うんですね。一貫にすることによって児童生徒の例えばその心の健康をサポートできるような加配体制、専門人材、それをどのように配置していくのか。それが恐らく大きなメリットにつながるのではないかなと私は思っていたのですが、このメリットのほうにはそれが載せられていませんでしたのでこの点をお尋ねいたします。</p> <p>それとですね、2点目は教育課程カリキュラムに関しても検討が必要になるかと思えます。これに関しては今までのところを、前回第2回の会議録も拝見いたしました但し問題、話題としては出てきていませんので、今後</p>

	<p>この教育課程カリキュラムに関してどのように改変されていくのかということに関して、構想があればお伺いしたい。</p> <p>で、資料2にこれは非常に大きな事業なんだということを書きました。確かに本日のご挨拶の中で教育長が町の将来を担う人材の教育なんだと。非常に大きな事業であるということはよくわかります。そうなるそれは毛呂山町としてどうしていくのかという、毛呂山町のまちづくりと本来一体、一緒に語る必要があると思うんですね。教育だけを取り出して語るっていうのではなくて、町としてどうあるべきなのか。そしてこういう教育を実施する、それによって人口をどのようにしていくのか。増やしていくのか減らしていくのか。魅力あるまちづくりというものに取り組んでいくそのプランとなるのが人づくりのための教育であるのか。というのであれば、魅力を感じて毛呂山町に越してくる人が増える。そういったことを想定してこの教育、大きな事業っていうものを繰り広げていこうとしているのか。ちょっとまちづくりと一緒に語るという観点が今までのところでは見えなかったっていうのをご指摘したいと思います。</p> <p>あとですね、地域がどう関わるのかっていうのが今のところはまだ見えないんですね。小中一貫にもっていくっていうのであればこれを地域の人材というのは必要になりますよね。例えば教員免許を持ってる人というのをどのように学校に入れていくのか、参画させていくのか。大きな社会実装であるということ私たち委員もよく考えて、もっとこう町全体という視点からもこれを議論する必要があるのではないのかなと私は考えました。私からは以上です。</p> <p>(事務局挙手)</p>
委員長	はい、どうぞ。
事務局	<p>今の質問いくつかお答えさせていただきたいと思います。まずメリットデメリットにいわゆる教育の中身の部分のメリットデメリットが書かれていないのではないかとこのところあります。こちらにつきましてはここで改めて書くということではなく、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を基に作っておりますので、こちらの前回の資料の中でですね、基本方針の5ページ目をご覧くださいませますか。こちら5ページにですね、毛呂山町として小中一貫教育に取り組む意義というところで学習面につきましては①学力の向上というところで、小学校でより専門性を活かした中学校教員による授業や教科担任制、子供たちの様子をよく知る小学校教員による中学校でのティーム・ティーチングの授業。こういったものが行われて</p>

	<p>小学生の知的好奇心を充足させたり、中学生での定着が不十分な内容を補充したりするなど学習意欲や学力の向上を図ることができるというようなところで書かせていただいております。</p> <p>また心のケアというところでは②の生徒指導といった面ですね、児童生徒の不安感を軽減することができるとともに、家庭と連携した生徒指導上の諸課題への継続的な対応、これが9年間を一貫することで対応できることが可能になりますというようなところ。また小中学生の交流や合同行事などを通して中学生には下級生に対する思いやりとリーダーシップの育成を、小学生には目標にするべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できますというようなところで載せさせていただいておりますので、これの一貫校になると主なメリットの一番上のところですね、プロジェクト基本方針が最も効果をあげるというようなところで集約して1つにまとめて今回書かせていただきましたので、細かい部分というか1つ1つは改めて載せてないような状況となっております。また基本方針の9ページのところをご覧くださいと思うんですが。施設一体型の検討というところで児童生徒が交流するためには児童生徒が往来しやすい環境であること。またですね小中学校の教職員がやはりこちらも近接した施設のほうが効率よくできるということ。また保護者や地域の方々にとっても近接した施設であるほうがより効率よく学校との協働ができるものと考えていますと。児童生徒がより効果的に質の高い教育が受けられる環境として施設一体型の小中一貫校を優先的に整備することが最もよい方法であると考えられますというような形で載せさせていただいておりますので、こちらをですね参照していただけるとありがたいなと思います。</p>
E 委員	<p>お答えいただきましてありがとうございます。プロジェクト基本方針は私もよく拝見しております。ただどこにも加配するとは書いていない。私はなぜこの質問をしているかというのは、教育現場今非常に仕事が増えていますよね。たくさんのいろんなニーズを抱える児童生徒がいるんです。ただでさえ教員側の仕事が増える中でね、加配なくしてこの一大プロジェクトを動かすっていうのは非常に負担になるんです。だから加配して、そして児童生徒にも安心してっていう。それをやっぱり具体的に示す必要があるんです。加配とは書いていないんです、そうですね。手厚く人員を配置する、サポート体制をしっかり行う。そのことが非常に重要になると思うんです。いかがでしょう。</p>
事務局	<p>加配につきましては、現段階で町として小中学校に加配教員を置くよう</p>

	<p>な体制というのは、今のところまだ検討していないところでございます。県を通してですね、この小中一貫関係の加配教員をいただけるかどうか、これはまた県と協議をしながらやっていきますので、そういったところでは今考えているところはございますので、ご了承いただければと思います。</p>
委員長	<p>今の質問はよろしいですか。</p>
E 委員	<p>それでは人員体制についてはまだまだその検討課題はあるということですね、そうでよろしいですか。</p>
事務局	<p>そのような形でお願いいたします。</p>
委員長	<p>すみません、3番の大きな事業としてというところで、まちづくりと絡めてってというところの質問があったと思うんですけども。あと地域との関わりという最後の2問についてお願いします。</p>
事務局	<p>それではまずまちづくりの前に地域との関わりというようなところですね、こちら基本方針にやはり載せさせていただいているように、こちら10ページですね。学校家庭地域の連携・協働ということでコミュニティ・スクールを推進しております。すでに学校運営協議会を設置いたしまして、各学校コミュニティ・スクールというような形で地域との連携を今図っているところでございます。</p>
事務局	<p>はい。まちづくりの部分なのですけれども、まさにおっしゃるとおりこれだけ大きな変革というのは、まちづくりに大きく関わる部分だということでは重々承知しております。そういった中でも、まずはこちら教育委員会のほうで魅力ある学校づくりをすることによって、まちづくりのほうにどのように携わることができるかというところをしっかりと検討していかなければならないというふうにも考えております。そうした中でですね、委員会の委員の皆様から、地域にかかるまちづくりであるとかそういったところの意見もどのように出てくるか、様々な意見が出されるかということもある部分となっておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。</p>
E 委員	<p>ありがとうございます。教育課程カリキュラムの検討についてもご質問</p>

事務局	<p>いたしました。これも先ほどの人員体制と同様に検討課題ということでもよろしいでしょうか。</p> <p>今の質問にお答えいたします。カリキュラムにつきましても9年間を見通したカリキュラムということで命の教育という、実際は学校のほうでも中学校区それぞれで取り組んでいる共通したものもございます。例えば手話の関係を各学校で学年に応じて地域サークルが入って、命の教育として取り組んでいるところもございますので、カリキュラムについては今進行形というか、それを毎年毎年見直しながら一貫して子供たちにどういった教育をするのかというところが、中学校で小中学校合同の研修会等の中で毎年毎年ですね、検討しているところでございます。</p>
E 委員	<p>ありがとうございます。これですね、毛呂山町の独自のその特色っていうのを打ち出せるところだと思うんですね。毛呂山町は掲げている特にその2021年度の教育行政重点施策を見ましてもね、非常にいいこと書かれていますよねこちらは。特にその中でもいじめ不登校対策に取り組むんだ、人権を尊重した教育の推進だ、そして文化、歴史を通した学習活動、道徳教育、命の教育ですね。今の時代で非常にこう強く求められているものを打ち出している。そういう特色っていうものを毛呂山町は目指す小中一貫校の教育課程カリキュラムに盛り込むことができるとね、毛呂山町独自の特色ある教育っていうのを打ち出すことができるのではないかと私は見てるんですよ。もしかしたら小中一貫校の議論の際にね、逆にメリットとしてこういうものを打ち出してこういう教育をするんだ、こういう環境を整えるんだ、加配をするんだと。こういうことを強く打ち出すっていうのは魅力の1つではないかなと私はずっとこのプロジェクト携わってこう考え続けているんですね。そこがなかなか見えてこない、3回目になっても。そこはちょっと魅力を打ち出すのあまりにも控えめに皆さんがしてらっしゃるのではないかなと思うんです。</p>
教育長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今回の検討委員会につきましては施設、あるいは開設へのご意見をいただくことに主眼を置いていました。E委員からいただいているようなそのまちづくりに関するもの、それから児童生徒の育成に関して、大きな目標をもってメリットを全面に打ち出していくことにつきましては、大変貴重なご意見でございますので私たちもそれを参考にさせていただいて、今後の教育行政の中にぜひ反映させていただければと思いますので、ご意見ありがとうございます。</p>

<p>委員長</p>	<p>(委員挙手) F 委員、どうぞ。</p>
<p>F 委員</p>	<p>Fでございます。丁寧な資料を作っただいて、どうもありがとうございます。すみません、E 委員のご質問のちょっと参考になるかなと思うんですが。わたくし実は加配教員をやっておりまして、いつも校長さんから言われたのはFさん、2月になるまで県のほうの決裁下りないよ、と。ですから、県が人員を決定して毛呂山町加配教員をっていうのは毎年2月だったんですね。不登校の支援加配教員をやらせていただきまして、それなりに魅力ではあります。その経験から言うと、先ほど事務局の答えたところで町の独自の予算というのがなかなか下りないんですね。ちょっとご参考になればと思ひまして。</p> <p>それからこれちょっと本題のほうなんですけども、今年毛呂山町で生まれた子供の数が約100人というのがどっかで報道されておりましたが。でですね、いろいろご苦労なされて教育委員会がこういう毛呂山町を2つの学校にというふうに提案されていると思うんですが。</p>
<p>委員長</p>	<p>すみません、それ質問ですか。</p>
<p>F 委員</p>	<p>質問ですね。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、わかりました。</p>
<p>F 委員</p>	<p>でですね、極端なことを申し上げますと1学年100人は1つの学校で大丈夫なんじゃないかと思うんですね私。小学校1つ中学校も1つ。バスを回すんだらば将来の人口規模を単年度100人。具体例を申し上げますと、私前の勤務校が吉見町でございます。吉見町は単年度の児童数生徒数が75人になりました。皆さんの手元の資料で6校の小学校を1つにまとめると。これは教育委員会相当思い切ったなと思うんですが、批判覚悟で、それでないと町がもたないと。で、毛呂山町も100人を切るともう3学級ですよ。そういうふうな提案をして、1つの学校にまとめて加配をできる限り付けて毛呂山町の教育を担う。幸いあの中学校も1学年6クラスぐらいまでは対応できる学校でございますから。そういうことが提案されていないというのは検討しなかったのか。経済原則考えるならば、そこまですばっと切ると。本当に1校に集中して毛呂山町の将来を担</p>

	<p>ってもら、という提案はなぜなされなかったのかなど。経済原則でないならばもう少し違う方法があったのではないか。以上でございます。</p>
委員長	<p>質問ですね。</p>
F 委員	<p>はい。</p>
	<p>(事務局挙手)</p>
	<p>はい、じゃあすみませんお願いします。</p>
事務局	<p>今どういったような検討がされたのかどうかという質問なんです、今回やはりこの未来を拓く人づくりの小中一貫教育プロジェクト基本方針に沿ったものが毛呂山町で出たというところで、こちらについてのご意見をいただきたいということなので。ちょっとその他にもこんな形態があるんじゃないか、そういう話がなかったのかというよりはそういったご意見として承ればなと思いますので、そういう形でよろしいでしょうか。</p>
F 委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>(委員挙手)</p>
	<p>G 委員すみません、先ほど事務局が説明した資料についての質疑応答ということによろしいですか。</p>
G 委員	<p>わかりました。</p>
委員長	<p>はい。すみませんお願いいたします。</p>
G 委員	<p>お世話になっております、Gです。先ほどE委員からも地域づくりというお話もありまして、地域の中でいろんなことをやっていくことが毛呂山の魅力になるというお話がありましたが、わたくし社会教育委員の中でここに出席させていただいていて。地域学校協働活動推進委員としても関わらせていただいているので、少し情報提供としてお伝えできればと思うんですが。地域学校協働活動がコロナ禍の中でなかなか進んでいないというのが実情です。で、毛呂山町の小中一貫というところの考え方のそばには</p>

<p>委員長</p>	<p>いつもこの地域学校協働活動があるべき、あるはずとして平成30年の時からずっと続いてきているものだと考えています。これに関しては今小中学校6校の中にコミュニティ・スクールで自由に使わせていただいているお部屋というのを用意させていただいておりますので、学校のほうでは準備万端整えていただいております。それを小中一貫になった時にも大いに利用ができるようにということで、今早急に準備をさせていただいておりますので、そこにはやはり人がいて、温かみがあって、子供との交流や先生方との交流があって、というところの高い理想に近づけるために今人を育成するところに力を注いでやらせていただいておりますので、6校に人が配置できるようにするための準備の期間として私たちの中で時間をかけすぎているなというところが反省でもあり、またここに参加させていただいている中での報告の1つになるかなと思ひましてマイクを取らせていただきました。毛呂山町の魅力を発信していく中で、町全体が立場に関係なく子供を真ん中において教育をしていく、日常生活を送っていくということの大切さというのは私も毛呂山町の中で子供を4人育てましたので、多くの方に育てていただいたり支えていただいたりしまして大変実感しているところでありますので、そこを大いに多くの方に共有していただけるようなまちづくりをしなければいけないというのは、人づくりでありまちづくりであり地域づくりというところでは誰と誰もがみんながつながってなくては進められないなと思っておりますので。そういったところでぜひここにいらっしゃる皆様方、学校のお立場であっても地域の方であっても行政の方であっても皆さんが参加をしていただけるような地域学校協働活動というものにご協力をいただけるようなまちづくりであれば、学校教育の中でも教育環境の中でもいつでも人がいて助けてくれる。そんな環境というか子供たちの取り巻くような生活が送れるのではないかなと思っておりますので、ぜひそういったところで私の立場からですと協力をお願いしますということになってしまうんですけども、ぜひ皆様方にこちらのほうのご理解も深めていただきながらこの一貫校のことを考えていただけたらなと思っております。ただ一貫校にしていこうっていうことだけを教育委員会も訴えているわけではなくて、すぐそばにそういうシステムも一緒に考えて進めているというところを知っていただけたらなと思っております。</p> <p>ありがとうございました。あとご質問とかありますでしょうか。</p> <p>(委員挙手)</p>
------------	---

委員長	<p>すみません今まだ本題にちょっと入ってないんですけども、事務局の説明したことに対する質疑応答というところでちょっとまだとどまってるんですけども。なければ本題のほうに入らせていただいとこと。よろしいですか、ということですすみません。</p> <p>(～プロジェクター等の機器を準備～)</p>
副委員長	<p>時間がもったいないので。副委員長という立場ですが、ときわぎの意見として今日いろいろと発表させていただこうと思ってます。ちょっと私自身この会議の場では副委員長ということなので、私の代わりにCさんにちょっと代わりに説明をお願いしたいと思いますので。Cさんお願いします。</p>
C委員	<p>ではですね、今回の3回目に向けて小中一貫校に関するところ、ときわぎでどういうふうに保護者の方捉えられているかなというところでちょっとアンケート調査したので簡単に報告させていただきます。配布が一応です、ね100枚配布しまして回答者66名というところで、まあ6割ぐらいですかね。これ今回配布も考えたんですけども、ときわぎ幼稚園の保護者の方のデータということでもっと今回は映すだけというところでご了承いただきたいと思います。</p> <p>まず回答の性別のほうなんですけども、8割お母さん2割お父さんというところですね。右の小学校区のところでいきますと毛呂山が51パーセント、泉野21パーセント、光山15パーセント、川角12パーセントというところで、7割が毛呂山小泉野小の校区になってます。回答者年代としましては30代40代の方がほぼ多かったというところ。回答者の子供の学年というところでいきますと、小学生が、幼稚園のアンケートなんですけれども、兄弟の方が多くて22パーセント。で年長、年少、3歳以下というふうが続いていきます。まずこれ、以前平成30年でしたっけ、町が行ったアンケートと同じような質問でやらせていただいたんですけども。今回その一体型、施設一体型の小中一貫校推進していることについて知ってるか知らないかというところで回答者の中では多くの方が知ってるよと。小中一貫、施設一体型で小中一貫校をやるっていうことを知っていますという回答でした。ではその知っていると答えられた方の中で、右で不明に思っているところを出していきますと、学校的生活環境だとか、人間関係、通学距離というところで。やることはわかっているんですけども、中身がちょっと見えてないっていうのがあるのかなというデー</p>

タになってきました。下の段、今度は小中一貫校といったところに関するところの理解度といったところで、ほぼ7割ぐらいの方が理解はしているという形でした。で、理解できていない、再度説明してほしいというふうに言われた方が3割ほどいまして。その中でまず以前から説明していたのは多分まだ子供がいない時期からやられていたと思うので、どうかかなと思ってここは年代でちょっと分けてみたんですけど。理解できていないという中の内訳見ていきますと、やはり小学生以下の方が多かった。来年度から小学校に上がる年長さんの方も意外と多かったというのが出ています。で、再度説明してほしいというところに入りますと、やはりこれから小学校に上がっていく、それから小学校になっていて今まさに令和8年10年で統合といったところに直面する方々が多かったという結果になっております。小中一貫校に対する不明点はなんですかというところで設問したところに関しまして、先ほどやることわかってるけど不明なところと一致する結果になったんですけども。やはり学校の生活環境であったり、人間関係、また通学距離もやはり多くの方心配されているのかなと思ってまして。ここは右側ですね、年少、年中、年長、小学生といったかたちでお子さんの年代別での不明点の内訳になるんですけども。ほぼ学校生活、人間関係に偏っているところがありますので、ちょっと私もそうなんですけども、イメージがどうもできていない。不安なことはいくらかでも出てくるんですけども、かといって町が説明してくださっているこんなメリットがありますというところもちょっとやはり抽象的すぎて、保護者のほうとしては理解しきれていないというような状況が浮き彫りになってきたかなと思います。次お願いします。これも前回のアンケートの設問にもあったので一応採って見たんですけども、小中一貫校に対する希望の形態ですね。現状維持なのか、小学校同士なのか、施設一体型なのかというところで。3つの選択肢で聞いてみたところ、前回のアンケートと同じでやはり現状維持がいいという方は多いんですが、ここ右の上段下段で中学校区で分けてます。川角光山が上段になりまして、下段が毛呂山泉野地区なんですけども。毛呂山泉野に関しては比較的小学校同士の統合であれば、今単一学級も出てきていますし仕方ないのかなというところで意外とOKだという意見がありました。ただ川角光山に関しては、ちょっと僕もその学校区ではないので理由はわからないんですけど、ここは結構n数も少ないんですが現状維持がいいなっていう方が多いっていうようなデータになっております。最後ちょっと独自の意見と言いますか、この今いろいろやられている小中一貫校に関する情報開示、どのような形がいいですかっていうのを採って見たんですけど。ネットと紙と動画配信みたい

	<p>な形で採って見たところ、ネットと紙、今町でやられている体系で十分情報のほうはキャッチできるのかなというような形になりました。この結果もちょっとときわぎの保護者だけなのでn数が少ないものの、やはり小中一貫校に対する具体的な説明というところをみなさん求められているかなと思ひまして。今回その通学距離の説明があつたり、クラス数と校舎のところの説明があつたり、先ほど教員の加配置の話もあつたり。そういった話はやはり説明というか皆さん情報が欲しいと思ひているところであり、まだ議論が必要なところのかなと思ひますので、そういったことを同じ年代の保護者の方も考えられているのかなということがわかつたかなと個人的には考へております。</p> <p>もし問題がなければ他の幼稚園にも協力いただいてアンケートを採つてみたいと思ひますけども、町としてはそういう活動はやってもいいですかね、あり方委員会の委員として。そこは1点ちょっと確認しておきたいと思ひますので。</p>
事務局	<p>はい。町としてどのようなというようなご質問だと思ひますけれども、あり方検討委員会としてお願いするということはまずはこの委員の中での決にはなると思ひます。ただ町としてはまだ今このアンケート結果の中でもご説明をしていないので、アンケートを採るタイミングは今なのかどうかというところ、町はまだ検討をしておる段階だということはお理解いただきたいと思ひます。</p>
C 委員	<p>はい。勝手にやってもいけないと思ひるので、そこは双方が納得できる形かなとは思ひますけども。</p>
B 委員	<p>1 個質問があるんですけど。</p>
C 委員	<p>はい。</p>
B 委員	<p>この数字を見ていったときに、小中一貫の説明が足りないから現状維持にしたいと思ひている親御さんが多いというふうにも見て取れるんですよ。</p>
C 委員	<p>そういう可能性もあります。</p>
B 委員	<p>ありますよね。それって今の教育委員会のタイミングって話なんですけ</p>

	<p>ど、例えばどこまで我々が説明する、我々かどうかはわかりませんけど。ここからの情報開示、その広報に載るってお話もありましたし。その説明を施そうという状態、例えばじゃあユーチューブをやるのかわかんないですけど、ウェブでの情報開示をもっと見やすくするっていう話なのか。で、説明がいった上でそれでもアンケートを採って現状維持。今だと現状維持って数字見れば現状維持がやっぱりいいじゃんって話にもなっちゃうし、逆に私の解釈としては説明が足りないから現状維持になるんだろうなと見て取れるわけで。</p>
C 委員	<p>あんまりこういう言い方は良くないですけど、私たちの関心も低かったのかなっていうのはあって。それをやっぱり同じ園にいるところから高めていきたいなど。</p>
B 委員	<p>それはアンケートを採ることで。</p>
C 委員	<p>そうですね。これも6割しか集まらなかったのでもうちょっと貰えるかなと思ったんですけど。そもそもその答えないっていう時点で関心ないのかな、わからないんですけど。</p>
B 委員	<p>よくわからないから答えてないっていう可能性もある。</p>
C 委員	<p>それをもう少し上げていくと町としてこういう活動をしている意義が出てくるのかなと思います。いつやるとかどうこうっていうところは当然僕は何もできないと思っているんですけど、そういう同じ世代の人たちの意識を上げるところで子供たちのためになるかなとは今考えています。</p>
B 委員	<p>今のじゃあ質問に追加すると、そういう意味で今の幼稚園の親御さんたちに何か追加で教育委員会として現状とかを集中的に説明したりとかってする機会とか可能性ってあったりするんですか。もしくはそれをしようと思っている。足りてないっていう話にはなっていると思うんですけど。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。まずは先ほども冒頭で申しましたとおり、広報のほうでこういう検討委員会を行っていて、委員の皆様からこういう意見がありますという状況を広報のほうでもどなたでも見やすい環境は整えさせていただきました。そして今の段階で、ではいつ何をしますという確定のところではなく、まずは皆さんに今やっていることをお伝えできる環境</p>

<p>委員長</p>	<p>のほうは整えさせていただいたということをお伝えさせていただきます。</p> <p>(委員2名挙手)</p> <p>すみません、先にこちらを閉めてからお伺いしますのでちょっとお待ちください。</p>
<p>副委員長</p>	<p>はい、これで閉めたいと思います。ただときわぎとしての意見、こうしたいとかこうしてほしいということではなくて、現状を切り取ったらこういう数字になりましたっていうだけの話になりますので。今後いろいろな啓発活動があるのかもしれませんが、それによってまた数字も変わるでしょうし、質問の仕方によっても変わると思いますので。あくまでも今回は町が前行った、平成30年ですか、に行った質問を基本的にそのまま。プラスアルファで少し僕ら独自の質問を付け加えさせていただいた結果をそのまま数字を発表させていただいたということですので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。ではどうぞ、はい。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどの質問の追加になるんですが、平成30年度の時にも私子育て講演会で前回かいつまんで説明させていただきました。小中一貫教育について説明をしたんですが、今年度の子育て講演会もPTAのほうと話をしまして、時間をいただいてやはりこの小中一貫教育がどのような状況なのかをなかなか伝わってないだろうということもありましたので、私のほうでコロナ禍においても小中一貫教育のほうやっていますよということで、今の現状ですね、お話をさせていただくような計画を今立てております。そういった機会を捉えていろんな方にですね、知ってもらうことが大事だと思っておりますので、そういったところも今後あるということで知っていただけるとありがたいなと。また宣伝してもらえるとありがたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。よろしいですか。では今の話とは別の形でご意見ある方。</p> <p>今小中一貫教育がすごくいいということをB委員と事務局のほうからもいただきましたけど、ここでは小中一貫教育はいいということを前提としてそのための施設をどうしたらいいのかっていうところも問題になっているわけです。だから小中一貫教育の一番いい形として施設一体型を進めて</p>

	<p>います。だけど今の現状では8年10年ではちょっと無理です。で、その施設について一体型がいいのかあるいは隣接型、隣接型っていうと多分川角のほうは川角小と川角中という形で分離型になっていくと思うんですけども。あとは今みたいな形のまったくの分離型がいいのかっていうところで一番いい環境はっていうところで、ここの検討委員会で検討しているわけですから。すみません、小中一貫教育ということだけではなくて、そのための施設はっていうところで少しご意見を述べていただければと思います。あと時期も、すみません。</p> <p>すみません、議長交代させてください。</p>
副委員長	<p>では議長を代わらせていただきます。どうぞ、ご質問ある方挙手をお願いいたします。</p>
H 委員	<p>質問ではなく意見でもよろしいですか。すみません、2点言わせていただきます。</p> <p>1つはこの前、前回出していただいた資料の中で保護者アンケートが小学校の単学級を希望する保護者が0.2パーセントしかいなかったということであったんですけども。私の経験からして、きっと希望して単学級を望むという方はいらっしゃらないかもしれないけれども、単学級の良さっていうものをきっとわかってらっしゃらない方が多いんじゃないのかなっていうふうなことを思いました。毛呂山はある意味単学級になったことが今までないので、そういう中で育ってみると単学級っていうものがどういうものかというのかわからない。でも親が望んでいることは目が届きやすくきめ細かな指導をしてほしい、幅広い関係づくりをしてほしい、活動の幅を広げて子供たちがいろんなことができるようなそういうふうな状況を作ってほしいと望んでいるとしたら、小規模校でも単学級でもそれは十分にできるんだっていうことをやっぱり知ってほしいなという思いが1つあります。確かに学級は1つなんですけれども、単学級の場合多分縦割りを使っていると思います。1年生から6年生までの縦割りで運動会も遠足もあといろんな授業なんかも縦割りでだったりしてやるわけなんですけれども、そうすると運動会なんかもクラスが半分になっちゃうわけです。普通だったら運動会は1つのクラスで赤だ白だってまとまってやるんですけど、クラスを半分にするとまとまるわけにはいかない。だけどまとまって目標を達成するっていう気分にはならないけども、でもクラスが半分になるので自分たちだけが勝ったってわーって喜ぶと、相手がすごい傷つくみたいなこともあって相手の気持ちを考えながら活動することができる。</p>

	<p>やっぱり応援練習で相手が頑張ってた偉いってすごいねって言うし、負けてしまったらそんなことないよみたいな言葉をかけてくれる人もいる。だからそういう意味では相手の目を意識して日々の行動ができるっていうことがやっぱりなんていうかな、関係性としてはすごくいいと思いますし。高学年なんかは遠足とか掃除とかそこらへんで常にリーダーシップをとることができる。そういう意味でもいいなと思います。発表会なんかでも人数が少ないので必ず1人が何かをしなくちゃいけない。だから少ないことはすごくデメリットにつながりやすいって思われてるかもしれませんが、実際にはそうではないってことをやっぱり理解してほしいなっていうことが1つです。</p> <p>もう1つはいろんなことをする時に小学校低学年がやっぱり一番損だっというか、デメリットを受けやすい立場になっているってことを考えてほしいなっていうことです。例えば小学校を統合する時に一番遠くて大変なところを重い鞆を背負って歩くのは低学年なんです。そしてもし施設一体型になるとしたら遊具がなくなってしまって、かわいそうな思いをするのも低学年。そして低学年は大声で、なんていうかな、わーって遊ぶのがやっぱりとても大事な時代なんですね。だからそういうふうな大声出してるうちに段々とそんな大声を出さないでも遊べるようになる。あるいは人との間隔が取れていく。そこでそういう大声が規制されてしまっているっていうふうなそういうふうな形で、なんかいろんな意味で低学年にあれしちゃだめだよこれしちゃだめよ、とても大変だけど頑張れよみたいな声をかけないとその1年生2年生が上手くやれない状況になってしまうっていうのがとてもなんか辛いというか、かわいそうだなっていうふうに思います。一番保護されていい低学年がやっぱり保護されなくなってしまうということがやっぱりよくないと思うし、そこら辺をやっぱり上手くいくような感じでやっていただけたらすごくいいなっていうふうに感じています。以上です。</p>
副委員長	はい、ありがとうございます。じゃあ議長代行を降りまして戻しますので、引き続きよろしくお願いします。
委員長	<p>(委員挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>
C委員	今、単学級の話が出ていて、まさに僕の息子今単学級でやっているんですけども、正直親としてあまりメリットは感じていないですね。授業参

	<p>観に行っても教室やっぱり狭そうだし。先生も僕行くとずっと見てるんですけど、やっぱり行き届いているとは言い難い正直、仕方ないんですけど。であったりあとはちょっとしたことで怪我したりとか。あとは人間関係も、私自身も高校が単一学級だったんですけど、その年からの単一と小学校の単一っていうとやっぱり1回決まったその階級みたいなのがなかなか崩れないみたいで、いつも同じ子の名前が出てきてあーだこーだっていうのはずっと続いているので。正直それがやっぱりまた年度変わって学年が変わってクラスがシャッフルされるっていうと子供もそこまで我慢しようかなと思うと思うんですけど、例えばもう2年3年続くのかと思うとあまりよくはないと思うので。私はちょっと小学校の単学級っていうのはできるだけ避けたほうがいいのかなくて今思っています。</p>
H 委員	<p>単学級といいましても先ほど35人の単学級かあるいは20人くらいの単学級かっていう学級数にもよると思いますけど、確かにちょっとやっぱり目立っちゃった子とかいろいろあると思いますので、その状況もあると思います。だからそれがすべていいということではなくて、やはりいいこともあるし悪いこともあるという観点で見ただけならばというところでお話しました。すみません、ありがとうございます。</p>
委員長	<p>(委員挙手) はい、どうぞ。</p>
E 委員	<p>先ほどのお話の中で低学年の負うデメリットということで遊具がなくなるっていうご指摘があったかと思うんですが、これですね身体的発達に応じた環境は当然整備されるのでしょうかね、この件の指摘はなかったんですね。資料5にもそれは書いてないですよ。この身体的発達に応じて環境を整えるということはこれは記されてませんが、これは前提でしょうか。</p>
事務局	<p>はい、質問にお答えいたします。具体的にどういうものかという表示がなされていないというようなご質問かと思うのですが、これから具体的に検討する中でももちろん必要なものは整備していかなければならないというふうに考えております。</p>
E 委員	<p>ありがとうございます。そうするとやはりあの身長差、体格差が際立つ時ですね小中というのは。そういった人たちと一緒にするという事は当</p>

	<p>然ながら身体的発達に応じた環境づくりが行われるという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>そのような理解でよろしいです。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はい、Bさん。</p>
B委員	<p>Hさんに質問なんですけれど、先ほどの意見を述べられたゴールとか目的って何だったんですか。私要するに単学級でもいいじゃないかってお話だったんですけど。そのゴールって要するにご自身で小中一貫教育はやる、でも施設一体型にするかはこの議論だっておっしゃってたんですけど。それとその単学級でもいいってお話がどう結びついてるのか私には理解できなかったんですけど。</p>
H委員	<p>はい。それは3つの観点、3つの施設の形態がありますよね。その中で単学級ということは、今の現状の中学1つ小学校2つで1つの地区を形成するところの状態が続いていくとそれぞれ単学級になってしまうと、何年後かにはね。その時の単学級の時に単学級だって、保護者のアンケートでは単学級は絶対だめだみたいなイメージでアンケートの結果が出ていますけれども。決して単学級でもだめということではなくて、いいところはあるんだっていうようなことをやはり皆さんにわかってもらいながら、どれがいいかっていうふうなことを考えていただく一助にしたいなと思まして今のお話をしたわけです。</p>
B委員	<p>ごめんなさい、それでも理解できない。すみません、小中一貫校の施設が一体じゃない場合、ここに書いてある資料3に書いてあるデメリットのところにある、小中一貫の現状維持と施設隣接型の単学級が解消できないということがデメリットに書いてあるのがおかしいという話ですか。</p>
H委員	<p>いや。</p>
B委員	<p>違う。なんだろう、私全然わからない。すみませんね、いやだってCさんおっしゃった通り私も自分の息子が単学級だったら、Cさんには失礼だし校長もいる中で失礼ですけど私も嫌です。だって私の息子がいじめられたらその翌年もその翌年もずっと単学級で学校、家を引っ越さなければい</p>

	<p>けないのかなあとかって思っちゃうし。その単学級、いやもちろんメリットはあるんだと思いますよ。今別に2クラスしかないのが私だって小学校4クラスだったし中学校5クラスあってめちゃくちゃ楽しかったですよ。今でも交流のある友達いっぱいいるし先生もいっぱいいた。でもそれが先生も減る、生徒も減るって言われてる中で効果的な教育をしましょうって話をしている中で、単学級にもメリットがあるというそのメリットってなんなんだろうって私にはちょっと。ごめんなさい、私の理解が悪いんですよ、はい。教えていただきたい。</p>
H 委員	<p>それは児童が少なくなった場合はやはり先生が目がすごく行き届くってというようなことだと思います。例えばいじめに遭ったとしてもね、2クラスだったら隣にいくだけだったら大して変わりはないんですよ。子供たちの生活圏っていうのは変わらないですから。学校ではいじめられないけれども、家に帰って近所で遊ぼうとしていじめられたりとかということはあるわけです。だからいじめそのものはやっぱり子供を移せばいいということではなくて、やっぱりその根本問題を解決していかなくちゃいけないというところがいじめだと思うんですね。いじめっていうのはなんっていうの、絶対に起こらないということではなくて、子供の心の発達線上でそういうふうないじめといわれるような現象になることもあるわけで。やっぱりそこらへんはできるだけ教師とか親とかいろんな形で解消しなくちゃいけないというふうに思っています。でも小さい学校のほうがやっぱりそれに関わる人の目が多くなるのかなっていうふうなことは思います。大きい学校だとその子がいじめられていることを目に付かないけれども、小さい学校だと人数が少ないので担任だけでなく担任外とかそこらへんいろいろ見ることもできる可能性は出てくると思います。</p>
B 委員	<p>その話になると先ほど私の資料でもご説明したとおり、義務教育学校として施設が一緒になった学校でいじめが減ったとか不登校の発件数が減ったっていう事例があつて。要するに単学級になることじゃなくて、小中一貫になって人間が増えれば、例え単学級の状態があつたとしても上下関係含め先生関係含め見る人が増えますよねって話になると、Hさんとしては小中一貫の施設一体を推進するためにそのご意見をおっしゃられているってことですか。と、私は聞こえてしまう。ごめんなさい、多分そうじゃないんだろうなと思うんですけど。私にはそう聞こえてすごい単学級になっても小中一貫にすることで大人の目とか中学生の目もそこに一体化するから施設一体型がいいっていうお話なのか。でも多分そうじゃないん</p>

	だと思うので。
H 委員	私はまだどれがいいというふうなことは言っていません。
B 委員	言っていない状態でじゃあどうしたい、要するにそのゴールなんですよね私が見たいのは。そのゴールに対してその話をしているかどうか。何のゴール、私のゴールの話からするとメリットしかないんですよね。
副委員長	ちょっと代わって、すみません。
B 委員	どうぞどうぞ。
副委員長	この委員会の目的はいろんな意見を出し合うということですので。ご意見ということで納めていただければ。
B 委員	それはどう捉えてもいいということですね私は。
副委員長	そうですね。いろいろな意見が出ていい場だと。
B 委員	別に私のほう、要するにその小中施設一体じゃないほうがいいと思っていらっしゃってその意見を、要するに単学級でもいいとおっしゃっているんだとしたらそう私は捉えますよということになってしまうんですけど。そうっていうのはそうじゃないほうで捉えちゃっても大丈夫なんですかという質問。
副委員長	各々の理解の仕方があろうかと思imasuので。
B 委員	わかりました。
副委員長	それでよろしいのではなからうかと思imasu。
B 委員	了解しました、すみません。
委員長	ありがとうございます、すみません。あと時間もあまりなくなっていました。ぜひ何かこういうことをお話しておきたいというようなことでご発言ありましたらお願いいたします。

F 委員	<p>(委員挙手)</p> <p>はい、ではF委員どうぞ。</p> <p>すみませんたびたび。いじめの発生について、非常に難しいと思いますね。今は皆さんご存じのようにいじめ対策基本法ができておまして、保護者からの訴えがあったならば、重大事態として学校を挙げて取り組まなきゃいけないと。教育委員会さんも取り組まなきゃいけないということになっておりますので、昔のように当事者同士握手させてはいそれで終わってしまう対応ができない世の中になっております。だからなんていうかな、いろいろな相談機関とか県の窓口とかございますので、すみません教育委員会の代弁みたいで申し訳ないんですけど、そういう方策がありますので、最悪の場合命の電話相談とかですねございますので、いろんな方策を使っただいて。担任の先生が動かないということであったら、担任外っていうのも実際にあったりします。そういうところについては以前よりも対策が進んでおりますので、教員をやっている者はみんなそういう情報が入っておりますので。保護者の意見はもう堂々と取っていいという時代になっております。学校の形態、大きさといじめの関係っていうのは先ほどですね資料で雰囲気として減少したということがございますが、実際の対応については全国一律の法律がありますので、どこの教育委員会も、時々新聞で報道されるようなひどいのがあるかなと思いますが、そういったところは是正しているっていうのは現状だと思いますね、すみません。</p>
C 委員	<p>すみません。今回宿題で出されている意見を述べるやつのところの質問なんですけれども、今の委員長の話もあるとおりはなんだろうな、自分はどういう形態がいいっていうのも書いちゃっていいものなのか。まあいいとは思んですけど、なんかもう全部自由記述みたいになってるのでなんか考えを間違っちゃうと違うこと書いちゃいそうかなっていう気もするので。なんかこう、こういうところは入れてほしいみたいなのがあったらちょっと指定はしてほしいかなと思うんですけど。例えば一体型がいいとかどの形がいいと思っててその理由は何だとか、なんかそういうふうにしてもらえるとまとめやすいかなと。</p> <p>(事務局挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>

事務局	<p>こちらですけれど、もともとはですねこの委員会の趣旨というものを記載させていただいております。というのもですね、やはり今後の毛呂山町の子供たちにとっていろいろ教育環境、また少子高齢化、世界が大きく変革する中でどのような子供たちにとって一番教育環境が望ましいのか。ここ3回これで検討委員会が終わりますけれど、その中で今いろいろ白熱した議論もありましたので、その中でそれぞれの方が考える子供たちにとってよりよい環境とは何か、どう考えるか。それを書いていただければ結構でございます。ですので、その3形態必ず書かなくてはならないということではなくて、委員皆様のそれぞれの子供たちの視点に立ったよりよい環境は何かを書いていただければと考えております。以上です。</p>
委員長	<p>よろしいですか。他にございますか。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>
B 委員	<p>さっき E さんからもお話があったんですけれど、その教育方針というかカリキュラムみたいな話で私ちょっとびっくりしちゃった、いい意味でびっくりしたのは今埼玉県立の高校って全部 Wi-Fi が飛んでるんですよ校舎内に。全員、全員ってわけじゃないですけどもちろんスマホ持てない子もいますけど、生徒がスマートフォンでその Wi-Fi を掴んでよくて。その Wi-Fi で例えば私なんかも高校行ってるんですけど、その後アンケートを採らせてください、今日やったことのアンケートって言って QR コードの紙を渡すとですね、みんながスマホを出してきてアンケートに答えてくれるんですよ。よくよく聞いたら授業が終わった後にその授業の理解度を計るために黒板にもう先生が QR コードをばんって貼って、はい今日の理解度を見るからなんて言って、生徒さんがスマホをこう掲げて今日の授業の内容なんかのアンケートなんかするっていう学校もあるらしいんですね。すごい進んでるなと私は思ったんですけど。その小中、例えば施設一体型、一体型じゃないにせよそういう例えば毛呂山町独自の教育をっていう E 委員のお話がありましたけど、そういう Wi-Fi 環境を整えるとか。今グーグルのタブレットは全員に渡っているんですけど、そうですね。それをどう活用するかみたいなことも含めてなんかその方針って出たりするんですけど。もしくは出てないとしたらここにそういう希望を、要するに小学校中学校でももっと IT を推進すべきとか、リモート授業など</p>

	<p>ももっと柔軟に対応すべきみたいなことも、施設一体型となって距離が遠くなるとしたらそういうことも考えるべきみたいな、校内にも Wi-Fi 環境をもっと整えて IT 化を進めるべきだとか。なんかそういう、生徒の意見もよく聞くべきだみたいなことも書いてもいいんですかねもしくは。じゃあ 2 つ、今質問は 2 つ。1 つ目はその小中の Wi-Fi 環境 IT 環境って小中一貫、施設が 1 つになることで進めやすくなるのかならないとかという話になるのかがどうか 1 つ。もしくは今進めようとしているのかも進んでいるって話なのか。2 つ目はここにもしそれが施設一体型だけじゃないこんな教育をしてほしいとか、こういうことをやるべきだみたいなことまでここに書いてもいいのかがどうか。その 2 つ、いいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご質問ありがとうございます。まず Wi-Fi 環境のほうの関係なのですが、今後施設をどのようにするから新しく整えるかという部分ですが、現在の小中学校につきましても普通教室では必ず Wi-Fi のほうを使うようにはなっておりますし、今年度体育館のほうも整備をいたしました。そのような環境の中で、環境のほうはある程度整えさせていただいておりますので、学校のほうでそれをこういかに使っていくかというところをしっかりと行っているところです。またあの 2 点目のですね意見のほうなのですが、先ほど事務局のほうから説明がありましたとおり、学校教育環境の整備充実についてこのあたりをご理解いただければいろいろなことのご記入になるかとは思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。そろそろ時間になります。特になければ今日はこれで終わりになるんですけども。ぜひ 1 回から 3 回目の議事録等をよく読んでいただいて、今日も参考にしながらご意見を書いていただければと思います。</p> <p>どうしてもという方いらっしゃいますか。よろしいですか。では議長の座を降ろさせていただきます、ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。次回第 4 回あり方検討委員会は 1 月 3 1 日火曜日、会場は中央公民館の視聴覚室を予定しています。改めてまたご通知を差し上げますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>またあの冒頭事務局のほうから説明がありましたし、何回かご質問もありました意見書の件なのですが、提出のほうのご協力も併せてお願いいたします。</p>

副委員長	<p>それでは閉会のご挨拶を副委員長にお願いいたします。</p> <p>はい。それでは第3回あり方検討委員会をこれにて終了したいと思います。みなさんお疲れ様でした。</p>
------	--